

<p>質問 1</p>	<p>レファレンスサービスについて</p> <p>どの館でも職員が研修を受けスキルを高めているのはいいことだが、サービス自体の周知徹底や利用促進が先決のように思う。どんな腕の良いシェフがいても、客が来なければ腕を発揮できない。南荻窪のポスター、今川のミニガイドなどの施策に効果がでてきているのはいいこと。高井戸で突出した実績が出ているが(館長の報告、図書館要覧による)、これもカウンターの場所の工夫だけではなく、実績向上につながるアクションがあったはず。そうした「優れた施策」は全体でやるべきではないか。</p> <p>図書館 HP の「レファレンス検索」も良いが、これについても検索システムの充実以前に、「レファレンスサービス、自分でインターネット検索するのとどう違うのか、Amazon で関連書を調べるのとどう違うのか」をはっきりアピールして欲しい(私自身も未だによくわからない)。「図書館のレファレンスサービスでなければ解決しなかった」というようなわかりやすい事例、例えばマンガ形式の冊子とか、図書館 HP でわかりやすく説明できないものか。以前の会議でこの話が出たとき、「プライバシーの問題等で事例を出しにくい」という説明があったが、研修を開催しているくらいだから、架空の事例が出せないことはないのではないか。</p>
<p>回答</p>	<p>図書館における「レファレンスサービス」では、「利用者の知りたいこと」について、その場で様々な視点から多くの資料を提供することが可能であり、この中で利用者の方自身が最も必要とする資料を選ぶことができます。また、専門的な事項については、都立図書館等との協力により資料の紹介が可能となります。いずれの資料にどのように記載が有るかということも回答することができます。</p> <p>レファレンスサービスをわかりやすく説明できるよう、引き続き取り組んでまいります。</p>
<p>質問 2</p>	<p>講座・講演・行事の計画・実施について</p> <p>各館で知恵を出し楽しいイベントを企画していて素晴らしいと思う。しかし、その計画・準備のために「何度も打ち合わせに」とか「何ヶ月も前から」といった説明を読むにつけ、職員にとって負担が大きすぎるのではないかと感じてしまう。ルーチンワークや種々の研修など、ただでさえ皆さん忙しいのではないか。世の中の的には、「いかに優れたコンテンツを保有するか」「優れたコンテンツが誕生したら、それをいかにうまくビッグビジネスに育てていくか」がビジネスの勝負の鍵になっている。確実に集客できる、あるいは価値のあるコンテンツ(イベント)は各館で持ち回りしたほうがいいのではないか。苦勞して企画したイベントを一回限りではなくさらに多くの人に楽しんでもらえるし、職員の負担軽減にもなる。</p> <p>興味のあるイベントでも、開催館が家から遠いのであきらめるとい人も多いはず。方南と永福など子供向けイベントを共同で企画していることがあるが、そのような形態がもっとあっていい。地域性などその館独自の要素のあるイベントや、著名人を呼ぶ特別なイベントなど例外もあるが、時期や場所を選ばないイベントは、価値あるコンテンツとして育てていった方がいい。</p>
<p>回答</p>	<p>事業の広報で最も効果的なものは、広報すぎなみであると考えています。この広報すぎなみへの掲載は、事業の内容にもよりますが、概ね実施の2ヶ月前に依頼を提出します。中央図書館事業では、広報の準備を加えて数ヶ月前から企画しますが、その後の講師とのやりとりやポスター作成は、日常業務の中で行っています。この際、担当者に負担が偏らないよう、適宜応援体制を組むなど進行管理を行っています。また、資料を保存し、類似事業に役立てることや、館長会等で実施状況を報告するなどして、良い企画は拡大していくよう取り組んでいきます。</p> <p>英語絵本の読み聞かせでは、同じ講師を宮前図書館と西荻図書館で依頼しています。事業のコンテンツを各館で共有することは、これからの課題として検討していきます。また、図書館協議会での各館の事業計画の資料や月2回開催される館長会での報告などを通じて、情報の共有化や意見交換を積極的に行い、より効率的・効果的な事業の実施に取り組んでいきます。</p>

<p>質問 3</p>	<p>講座・講演・行事の宣伝・告知について</p> <p>これも以前より話題にあがっていることだが、なかなか開催情報を多くの人に伝えるのは難しく、図書館 HP の案内や館内のチラシを手取る人は、普段から図書館をよく利用する人ばかりと思われる。なぜ、「すぎなみ地域ドットコム」のような、区内のイベントを紹介する web サイトに図書館は参加しないのか。同時にこうした web サイト自体の宣伝を、区として推進してほしい。区役所の web サイトに「イベント情報」ページにも図書館は入っていないのではないかと。宮前で開始しているツイッターも素晴らしいが、単館の施策では大々的な宣伝はできないと思うので、宮前で実績が上がれば、図書館全体でも検討すべきだろう。</p> <p>今年の夏休みに、子供向けのイベントを図書館・児童館など合同でまとめたチラシがあったが、なぜそのような宣伝をしないのかとずっと思っていたので、よくやってくれたと感じた。とても便利だった。</p>
<p>回答</p>	<p>現在、図書館行事の主な広報媒体は、広報すぎなみ、区・図書館ホームページ、区内公共施設へのポスターチラシ配布です。また、協働事業で主催団体が主要日刊紙の告知欄に記事を書けることがあります。ご指摘の区 HP の「お役立ちサイト・リンク集」の中にある「すぎなみ地域コム」は、主に地域で活動する団体の情報を発信する地域活動の情報サイトです。図書館行事の周知を図る中で、今後、どの媒体を活用していくのが効果的であるか、事業の内容などを踏まえ、検討していきます。</p> <p>「夏休みの行事一覧」は、生涯学習推進課をはじめとした社会教育施設の夏休み小学生対象行事をまとめたものです。昨年度から情報の収集、デザイン、印刷発注、校正、学校配布を生涯学習推進課と図書館が協働で進めています。</p>
<p>質問 4</p>	<p>会話していいスペースとそうでないスペースについて</p> <p>イベントやギャラリー、利用者とのコミュニケーションの場の増加、夏休みの自習室の設置など、「知の共同体」「楽しい交流空間」を目指す第一歩ともいえる活動が図書館に増えていると感じた。一方で、図書館に本来の目的（静かに本を読む、調べ物に集中する）でやってきて、それ以外の活動に関心のない人も多いただろう。そうした活動が増えていることを、逆に不満に感じている人もいるかもしれない。今後、会話していいスペースとそうでないスペースの区分けを明確にし、かつ、利用者への理解を拡大することが必要なのではないかと。</p>
<p>回答</p>	<p>現在の環境の中で、可能な限り取り組んでおりますが、引き続き理解が得られるよう周知に努めていきます。また、今後、施設の改修や改築等に際しては、利用形態を考慮に入れて整備方法を検討してまいります。</p>

<p>質問 1</p>	<p>図書館協議会は外部機関か 中央図書館の上半期運営状況報告では、図書館協議会を他機関として扱っていたが、それは間違えて、協議会は図書館運営では身内であるはず。図書館当局と協議会のかかわりについて報告すべき特記事項があれば、関連資料の別項目(「協議会で出された質問・意見」)で処理すべきだろう。</p>
<p>回答</p>	<p>ご指摘のとおりです。 図書館協議会は、区の附属機関ですので、報告書の内容から削除します。</p>
<p>質問 2</p>	<p>ビブリオバトルは子ども読書促進活動のプログラムは不適 中央館その他で、子ども読書促進活動の一貫としてビブリオバトルなるプログラムを重視している印象を強くしたが、このことの起こりを考察すると小学生向けでははく、ある程度の読書力を有している中高生向けの催しものである。 なお、「バトル」は読書指導の本質と相容れないものがあるので、これを図書館のプログラムに採用し、定例化するならば、闘うあるいは競い合うなどの意味合いをもたないように、その名称を工夫すべきである。 また、これは図書館固有プログラムではないが、「本の帯コンテスト」はこのビブリオバトルと同じ効果をより良く遂げる、と史料する。</p>
<p>回答</p>	<p>9月に実施した図書館職員対象の研修「ビブリオバトル」は、杉並区子ども読書活動推進委員の提案で、中央図書館が企画して実施しました。研修講師からは、小学生を対象とする場合、発表時間や、その他工夫が必要であるとの説明があり、図書館職員も同様の認識です。今年度中の実施予定はありませんが、館内研修として職員だけで実施した館があります。区民から参加者を募って実施する場合、全国的に認知されている「ビブリオバトル」という名称を使用して広報するのが効果的と考えます。</p>
<p>質問 3</p>	<p>他機関との事業協働のアプローチ 阿佐谷を筆頭に他機関との協働事業を成功裏に展開している館がある一方で、それを模索している館も少なからずあった。他機関との協働事業はどの館でも一様に成立することはないが、その努力はすべきであろう。また地域々々の特性を生かした方向を見出し、それにふさわしいアプローチが必要となる。そこで今年度これまでになされてきた努力やその方策について知りたい。</p>
<p>回答</p>	<p>(中央図書館) 平成26年3月に東京子ども図書館と中央図書館の共催で「かつら文庫リニューアル記念講演会」を開催します。また、教育委員会後援名義を使用して図書館を会場とした事業を実施したいという申し出も、徐々に、増えてきています。図書館は名義使用承認事務と事業会場の管理者が同一という特徴があり、承認通知をするだけでなく、広報、事業準備、関連資料の展示などで、事業主催団体に大きく協力することができます。中央図書館では、この名義使用承認事業が他機関との協働事業のきっかけとなるものと考えています。</p> <p>(永福図書館) 昨年度から継続している児童館との協働事業の実施を通じて協働事業の有効性の理解を促進し、新たな事業展開の機会を得るように努めました。また持込みの話ではありましたが、地域の読書活動団体の活動支援を通じて、協働事業立ち上げのモデルケースにつながる道筋を探っています。</p> <p>(柿木図書館) 「自然科学」が館の分担収集の一つであることと、地域的に近いこともあり、科学館との協働事業に力を入れています。 年度当初に両施設の担当者が集まり、どんな事業が実施可能か協議し、それに基づいて、 「おもしろ理科教室 双眼実体けんび鏡をのぞいてみよう」 「科学館事業 すぎなみ・星と宇宙の講演会」関連の展示 科学館事業を紹介する「科学館コーナー」の設置を行いました。 また、あかちゃんタイム充実のため、近隣の四宮森児童館の事業の見学に行ったことをきっかけに、児童館事業「ころころタイムスペシャル 絵本のおはなし」に参加しました。</p>

(高円寺図書館)

教育委員会区民企画講座 CAMO プロジェクトで社会教育活動している 20 代、30 代のメンバーで構成される高円寺部との協働事業で、「きみの絵を絵本にしたい！」という企画が進行しています。高円寺部から頂いた企画で、高円寺部が作成したストーリーに絵を書いてもらう小学生を募集して、絵本が完成したところです。2月(予定)に図書館でお話会をおこなうことで協議が継続中です。小学生向けのストーリーのため、小学生に来てもらえる方法を検討中しています。

(宮前図書館)

今年度、以下の組織と連携事業を実施・実施予定です。

・学校連携

西宮中：「宮前図書館出張展示事業」 松庵小：「宮前図書館休館日開放事業」

・重点収集

【医療と健康コーナー】

杉並ケア21：高齢者向企画事業

高井戸保健センター：区内関連情報・資料の提供

【ビジネスパーソン支援】

高千穂大学：ビジネスパーソン向け企画(日程調整不可のため中止)

原則、区・館の重点目標達成のために「どのような組織と連携しサービスを展開していくのか」という視点で館として連携可能な組織・機関を選定し、アプローチしています。

(成田図書館)

平成24年度から東田中学校図書委員とYA 共同企画展示と共同広報誌を発行し、連携を深めています。中学生によるおすすめ本の展示やしおりは一般利用者の関心も高いため、本を通じた異世代交流を図る事業としてもその可能性を育てたいと考えています。

(阿佐谷図書館)

杉並区産業振興センターと協働で「起業・経営相談会」を月1回開催しています。図書館での事業としての周知が足りない部分もあり、広報すぎなみへの掲載頻度を今年1月から月毎にするなど周知に力を入れています。

その他、11月には「没後20年井伏鱒二展」を、郷土博物館所蔵の貴重資料(写真・直筆原稿等)を借用して図書館資料と共に展示。12月から郷土博物館で開催中の展示「杉並文学館」では、図書館発行の「阿佐ヶ谷・荻窪界限文士村ガイドマップ」を紹介していただいています。他機関と連携が図れるよう、常に他機関や地域の事業等の動向を把握するよう心がけています。

(南荻窪図書館)

他機関との協働事業は、図書館活動の発展には不可欠なものであります。今年度、当館では近隣の小・中学校との連携を模索して話し合いを行っています。具体的方策としては、小学校児童によるおすすめ本の紹介文を掲示することや中学校の図書委員の図書館訪問などを行っています。

(下井草図書館)

職員一人一人が過去に培った人脈等をパイプに実施してきました。また、区民センター協議会等へ出席し、地域の各種団体にアプローチする足がかりを作っています。

(高井戸図書館)

協働事業として以下の事業を実施しました。

阿刀田高氏の中学生向けギリシャ神話講座(高井戸中学校との協働)

高井戸中学校図書室の地域開放事業(高井戸中学校との協働)

開館15周年事業(藤沢周平記念館・(株)藤沢周平・山形放送との協働事業)

絵本ライブ(子供の成長を護る杉並ネットワークとの協働)

(西荻図書館)

昨年度、イベントとして行った子どもと保護者対象の英語絵本の会を、グループと協議をして毎月の行事として実施しています。

地域住民の方からの提案により、講演会(大河ドラマ関係)を実施しました。

近隣保育園からの提案により昨年度末に試行として実施した近隣保育園の保育士によるお話し会を毎月の行事として実施しています。

日本フィルの出張コンサートを父の日記念として、父親と赤ちゃんの限定コンサートとして実施しました。

地域住民の方からの提案により、ショウケース展示として、所有している資料を展示しました。

9月にNPOからの提案により、自殺予防月間記念事業として、講座を実施しました。

10～11月の読書週間を記念して、地域の文学グループの提案により、地域に在住していた評論家の生誕100年を記念しての展示及び講演会を実施しました。

11月に地域商店街連合会の提案により、講演会及び街歩きを実施しました。

1月に地域団体との協働により、講演会を実施する予定です。

2月に地域のケア24との協働により、講座を実施する予定です。

現在、来年度事業として「東京女子大学との協働」を模索しているところです。

(今川図書館)

近隣の小中学校や地域で子どもの読書活動支援に携わる方たちとの懇談会が4年目となり、今年度は初めて4小学校と読書ラリーでの連携を行いました。9月以降は、近隣中学校の生徒による本の紹介文を、今川図書館だよりに継続的に掲載しています。将来的には、生徒に来館してもらい、YAコーナーの展示に協力してもらうことも考えており、学校図書館司書と検討中です。また、近隣中学校で開催されたブックカフェ(名作にちなんだ給食メニューとブックトーク)に館長・スタッフが参加するなど、交流を深めています。このほか、将来の連携を見据え、近隣児童館に懇談会への参加を働きかけています。

(方南図書館)

2月に方南児童館と協働で開催予定の事業を年度初めに打診し、7月から児童館・図書館・依頼先の3者で打ち合わせを行いました。現在、ほぼ内容が確定しましたが、会場となる児童館の改修工事が行われることとなり、急きょ方南小学校へ会場を変更して実施する予定です。

方南東自治会の勉強会の場として、毎週、図書館施設を提供していましたが、その延長として、勉強成果の発表会として利用できないかとの提案がありましたので、会場の提供やチラシの作成、広報活動等の協力を行いました。

協働と言えるかわかりませんが、重点課題である子育て支援関連を充実させるために、関連機関へパンフレット等資料の図書館への設置提供依頼をしました。現在、管轄の保健所の他、子育て支援課・子ども医療・手当係から最新のパンフレット類を適宜送付していただき、館内で提供しています。

今後、更に、杉並ならではの様々な機関のご協力を頂き、多角的な事業の展開を目指します。

<p>質問 1</p>	<p>報告の体裁に関して これまで、本報告書に関しては事実だけの記述ではなく、読み手の立場に立って活動実績の「評価と課題」を明らかにしてはどうかと指摘してきました。今回の報告書はその趣旨を踏まえた体裁となっており、大変、理解し易いものとなっています。敢えて申し上げれば、地域館で記載内容に「粗密」があり、この点については中央で指導される必要があると考えます。この種の報告書は「読み手」の視点が大切ですが、同時に職員の皆さんが事実と共に課題を共有化し、次年度の改善点を探るためにも重要なものです。</p>
<p>回答</p>	<p>記載にあたっての統一性など、今後、研究し、改善に努めてまいります。</p>
<p>質問 2</p>	<p>本報告書における中央図書館の役割について 中央図書館の「取組状況」報告の内容が、当館の運営に限ったものとなっています。中央の役割はそれに留まらず、全地域館の活動を見渡し、各地域館に共通する課題(横串課題という言い方をしますが)を抽出したり、優れたイベントについては他館に積極的に横展開するといった方向感を併せて提示することが必要だと考えます。</p>
<p>回答</p>	<p>中央図書館の役割の記載内容について、今後、研究していきます。</p>
<p>質問 3</p>	<p>個別活動報告に対する意見 各地域館ともに多彩な活動が実施されています。ここでは「新基本方針元年」という視点に立って、前項で指摘している地域館共通の横串課題3つに絞って意見を提示します。 YA対応の強化 プレママ、赤ちゃん、児童等、この世代層に対しては多大の資源を投入して来ました。そして成果も上がっています。今後の重点世代は、読書率が急激に低下してくる中高校生であると考えます。各地域館はそれぞれの取組をしていますが、学校との連携を始めとして様々な課題を抱えています。本テーマを重点プロジェクトとして取り上げ、全館を上げて学校長、学校司書、学校支援本部等と連携して年間を通じた活動を推進してはどうでしょうか？ 職場体験や学校図書委員との懇談等、地域館によっては成果の上がっている活動もあります。これらを評価した上で、全館で期間を集中して取組んでいくことを提言します。</p>
<p>回答</p>	<p>(中央図書館) 各館での取り組みが始まったばかりで、各館にバラツキがあるのが現状です。このような状況を踏まえ、どのような施策の展開が効果的かなどを含め検討課題とさせていただきます。実施にあたっては、学校長の理解、図書館員の理解、学校支援本部等・各関係機関の理解、が必要と考えており、理解の促進についても検討してまいります。</p> <p>(永福図書館) 職場体験生との懇談は毎回行っており、さらに今年度上期に職場体験を受入れた中学校の図書室訪問・図書委員との懇談を行い、YA世代の興味・関心の把握に努めています。こうした中で、学校によって区立図書館の活動に対する理解度に差があり、連携の難しさを感じています。学校側の理解の促進に向け、全館共通の取組みとして集中的に実施することも有効であると考えています。</p> <p>(柿木図書館) 中学生の職場体験を私立1校、公立1校受け入れました。 また、近隣の中学校の学校支援本部が開催している読書会に随時参加しています。</p> <p>(高円寺図書館) YA対応の強化と、他館のベストプラクティスの横展開について、全館が合同で検討し、時期を合わせて活動するほうがやりやすい場合があると考えます。</p> <p>(宮前図書館) 所管の学校の中で良好な関係である教育機関と下記の事業を実施しています。</p>

- ・ 職場体験
- ・ 出張展示
- ・ その他企画事業

学校との連携は学校自身の姿勢・学校の取組によって左右されるものです。特に学校は各年度に指導計画を立案の上、年間計画を実施しますので、新たに学校との連携を模索する場合は、事前に学校との綿密な調整が必要となります。各図書館管轄の所管の学校も多いため、実施にあたっては検討が必要であると考えます。

(成田図書館)

小学校司書との懇談会開催、中学・高校との職場体験受入をしています。また、YA サービスでは、東田中学校との共同企画展示と共同広報誌を発行し連携を深めています。

(阿佐谷図書館)

近隣の4中学校と連携をしたおすすめ本リストを毎年発行していますが、学校によって考え方(読書活動への取組姿勢等)がまちまちで、主旨を理解して頂くのに相応な労力を要する場合があります。年間を通じた活動を推進するにあたっては、長期的視野で学校関係者とコンタクトを図り、双方の負担にならないようにする必要があると思います。他館での成功事例を一つ取り上げ、それを全学校、全図書館で展開することもYA強化の起点になるかもしれません(のベストプラクティスの横展開とも重なります)。

(下井草図書館)

各地域館では、それぞれ今までに培った独自のパイプに基づき、学校側と実施日を調整し、事業を進めていると考えます。全館で期間を集中し実施するには、各学校間の学校行事等との調整が必要であり、中学校校長会等と十分協議する必要があると考えます。

(高井戸図書館)

重点収集テーマとして「子育て」を選び、0歳から18歳までの読書推進を目指しています。赤ちゃんの頃から図書館に親しみ読書の楽しさを味わった子供は受験期に一時的に本から離れても、戻ってきてくれると感じています。対象年齢を見極め、的を射たサービスを提供し、生涯にわたって本を携えることのできる大人になってもらうためのサービスを展開していきます。

(西荻図書館)

今年度実施した学校との連携行事として、次のことを実施しました。

- 近隣学校司書(司書教諭)との懇談会(近隣小中学校5校)
- 中学生のお勧め本カード展示(読書週間記念)(含む:学校司書経由)
- 学校司書・図書ボランティア対象の修理本講習会
- 学校司書ブックトークへの参加(近隣中学校)
- 職場体験受入(中学校)

(方南図書館)

ご指摘の通りだと思います。10月に初めてのYA向けイベントを開催し、周知方法には考えられる限りの努力をしたものの、なかなか集客には結びつきませんでした。

下半期に入り、YAサービスへの取り組み方そのものを見直す為、学校司書連絡会を開催し図書館にできる事を検討しているところです。

(南荻窪図書館)

児童生徒の読書率の低下は、図書館においては大きな課題と考えております。当館では、近隣の小・中学校の図書担任と学校司書等と連携を図りながら、読書率の向上を目指し話し合いを行っているところです。

(今川図書館)

中学校の職場体験を3校6名、高校の職場体験を1校1名、都立高校の「奉仕の時間」のボランティアを1校4名受け入れました。

近隣の中学校3校、小学校4校の学校図書館司書、図書ボランティア、地域の読み聞かせグループとの懇談会を年2回開催し、4年目となりました。中学校に関しては、この懇談会を通じて、図書館便りへの中学生による本の紹介文の執筆を依頼、9月から掲載しています。

また、地域の中学校が開催した「ブックカフェ(特定の本をテーマとした給食とブックトーク)」や読書会に館長やスタッフが参加して交流を深めています。

	<p>1月に開催した行事に関しては、地域の2中学校4小学校にチラシを配布したほか、地域にある私立高校へ初めてチラシを配布しました。</p> <p>中学校の学校図書館司書と連携の形を探っていますが、中学校は年間を通して行事等でかなり忙しく、生徒を連れて学校外に出ることが難しい学校もあります。「全館で期間を集中して」となると、今までできなかった活動が可能になることも考えられますが、学校側に負担にならないよう、各校の事情を良くみ取って事前調整を行うことが必要と思われる。</p>
質問 4	<p>個別活動報告に対する意見 新たな視点からの職員研修 実務研修は別として、「新たな発想や視点」を生み出すための研修機会を提供すべきだと考えます。佐賀県武雄市に代表される図書館運営等、他都市の先進的取組みを学ぶ機会を提供しては如何ですか。</p> <p>因みに、去る10月には日経新聞で「図書館新時代」というタイトルで5回にわたる連載記事が掲載されました。その中では、中学生が「選書」に参画するといった取組みも紹介されています。更に、前々回の協議会でビジネスパーソンに対する取組みが少ないとの意見が出されました。最も先進的な取組みをしているのはNY図書館の"SIBL"とのこと。司書をNY図書館に研修派遣するといった新たな試みにもチャレンジすべきだと考えます。</p>
回答	<p>杉並独自の研修は行っていますが、都立中央図書館や国会図書館が主催する研修への積極的な参加を促進します。</p> <p>なお、海外への派遣研修となりますと、人材、予算等非常に難しいものと考えています。</p>
質問 5	<p>個別活動報告に対する意見 他館のベストプラクティスの横展開 一つの例として阿佐谷図書館では「就活への第一歩」や「自己PR攻略」等、就活生に対する支援活動の報告がありました。今の2年生からは企業訪問の時期が3年生の3月となり、短期決戦が求められることとなります。その意味ではこの種の活動を全館で展開することが有効だと考えます。</p>
回答	<p>(中央図書館) 各館で、地域性や、独自の発想・創意工夫により行事等を展開しています。横展開につきまして、就労支援センターなど所管部署との連携を図り、効果的な展開方法などを検討します。</p> <p>(永福図書館) YA世代と並び利用促進を図らなければならない世代と考えます。実施のためにはある程度騒がしくなる情報交換スペースと静かな読書環境スペースの区画分けなど施設環境面の見直し、すでに成果をあげている事業の基本ノウハウの共有が必要と考えます。</p> <p>(柿木図書館) 他館の先進的な活動には学ぶべきだと思いますが、場所や体制の問題もあり実施は難しいと考えます。</p> <p>(高円寺図書館) 再掲 YA対応の強化と、他館のベストプラクティスの横展開について、全館が合同で検討し、時期を合わせて活動するほうがやりやすい場合があると考えます。</p> <p>(成田図書館) 中高年齢層の利用が多いため優先順位は低いと考えますが、地域情報として他館の優れた活動を利用者にお伝えすることは必要だと思います。</p> <p>(下井草図書館) 同一区内であっても、各地域の特性がありますので、各地域館での事業については、各地域の特性に合った事業を展開して行くことが望ましいと考えます。</p> <p>(高井戸図書館) 重点収集が「子育て」であることから、直接的ではありませんが「インターンシップの積極的受け入れ」や能楽師の講師による「声の講座」などを実施しています。</p> <p>(西荻図書館) 横の展開は、各館の企画共同検討の機会がなく、現在のところ実施する状況ではありません。</p>

当館の就労支援としては、毎週月曜日午前中(2コマ)、就労相談をボランティアの協力により、実施しています。

(方南図書館)

当館ではYA向け・就活等の部門が十分でないと考えていますので、今後、阿佐谷図書館を手本に充実を図っていききたいと思います。

(南荻窪図書館)

各館では、地域性や環境などを考え独自の様々な行事・講演会等をおこなっております。全館統一的な活動をとのご指摘ですが、利用者はどこの館でも利用できますし、また様々な年齢層の方がおりますので、すべての館で同一な行事や講演会等を行うことが利用者にとり賢明なものとは限らないのではと考えています。

(今川図書館)

他館のベストプラクティスに関しては、地域館としては取り組みの成果を把握する機会が現状では少ないので、他館の活動成果を知る仕組みがあれば参考にしやすいと考えます。

就活支援に関しては、現状では特に取り組んでいませんが、ゆうゆう館併設の当館の利用者層は中高年が多く、優先度は高くないと考えます。ただ、関連資料が十分とはいえないので、今後充実を図りたい分野です。地域特性や利用者層を考慮して、他館の例を参考にしつつ独自性を出して活動をしていきたいと考えます。

質問 1	分担収集・重点収集について
質問 1-1	各館の分担収集分野と重点収集分野(課題解決に向けた資料収集の分野)は、相互に関連している館もあり、そうでない館もあるように見受けられます。どのような考え方で分担収集分野、重点収集分野をそれぞれ割り当てられたのですか。
回答	分担収集に、「資料管理要綱」で定めたとおり、「図書館全体の適正な資料の構成と所蔵タイトル数の確保を図ること」を目的としています。この間、図書館の数が13館になるまで、各館の担当する範囲は各館の資料所蔵状況等を踏まえて変更してきました。また、区民の課題解決に向けた「重点課題」については、各館の意向を踏まえ、中央館で調整して決定しています。区民の課題解決に向けた取り組みのため、分担収集と一致しない場合があります。なお、重点課題ですので、一定期間を経過すると修正することが必要となります。
質問 1-2	分担収集については資料管理要綱第8条に「積極的に収集を行うものとする」とされており、「積極的に収集する」の定義が同要綱第3条で明らかにされています。一方、重点収集については同要綱第14条に「その範囲及び収集規模等の計画を定め、収集を行う」となっています。その計画でどのように定めているのですか。
回答	各館がそれぞれ計画を策定し、収集しています。
質問 1-3	分担収集資料、重点収集資料、それらに属さない一般的資料について、それぞれどのように収集タイトルを選定しているのですか。「選定会」と各館との関係に触れてご教示ください。
回答	業務委託館をのぞき、発行される資料について各館で検討し(事前検討)、全館選定会において、区立図書館として所蔵する資料を決定しています。各館においては、分担収集や重点課題を意識して資料の選定を行っています。委託館については、委託館職員とも相談しながら資料相談係職員が事前選定を行い、全館選定会で決定しています。
質問 2	選書について 下井草図書館の記事に「業務運営委託館なので、直接選書にかかわることはないが、…」との記載があります。運営形態の違い(直営、業務委託、指定管理)によって資料選定の仕方が違うのですか。
回答	全館選定会を経ており、特段の差異はありません。質問 1-3 をご参照ください。
質問 3	職員の育成について 分担収集や重点収集の分野を意識して職員の確保、育成が行われているのですか。
回答	<p>(中央図書館) 育成については、各種研修でスキルアップを図っています。 職員の確保については、異動時期に司書の配置に努めています。また、司書講習受講を職員に勧奨しています。(今年度1名取得))</p> <p>(永福図書館) 育成については、中央図書館が実施する研修への参加に加え、指定管理者独自に設定している研修プログラムや外部機関実施の研修会を受講することによってスキルアップを図っています。スタッフの確保については、新規採用時に有資格者を要件としているほか、配置後通信教育等を通じての資格取得を推奨しています。分担収集・重点収集分野を専門とするスタッフの配置は難しいため、配置後の実務経験の中でスキルアップを図っています。</p> <p>(宮前図書館) 職員の確保:スタッフは極力、司書・有資格者かつ図書館に適正のある人材の採用に努めています。 職員の育成:OJT・各種研修にて対応しています。</p> <p>(阿佐谷図書館) 分担収集、重点収集を意識した事業運営を行っており、年度当初に年間の事業計画を説明し、</p>

	<p>分担収集や重点収集については職員一同、共通の認識としています。また、選書の際も意識するよう指導しています。</p> <p>(高井戸図書館)</p> <p>図書館の命でもある、資料の収集は、館内に選定チームを設け、購入から除籍までを統一的に考慮できる体制と、書店での見計らい、書評の確認、出版社の信頼性、など日常的に研鑽を積んでいます。</p> <p>(方南図書館)</p> <p>重点収集(子育て支援)は分担収集に沿って決めてあります。本館の分担収集は、保育園が併設されているため児童書、並びに社会科学です。館の特徴から児童書関連を意識し、児童サービスに従事した職員、子ども好きな職員を確保しています。また、児童関連の研修には積極的に参加しています。</p>
質問 4	<p>指定管理について</p> <p>分担収集や重点収集の分野を意識して指定管理者の選定が行われているのですか。</p>
回答	<p>指定管理者の選定については、プロポーザル方式により図書館業務全般の企画提案から審査を行い、選定しています。</p>
質問 5	<p>広報について</p> <p>各館の分担収集、重点収集についての紹介記事が図書館のHPに見当たりません。(探し足りないのかもしれませんが)掲載しないのですか。</p>
回答	<p>分担収集の目的が図書館全体としての蔵書構成とタイトル数の確保としているため、あえて分担収集についてはHPに掲載しておりませんが、重点収集については、各館において実施する事業や取り組みについて、必要に応じてHPに掲載しています。重点収集のHP掲載については、検討課題と考えています。</p>
質問 6	<p>レファレンスについて</p> <p>レファレンス記録は、各館で適宜書式を作成して実施しているのですか。</p>
回答	<p>(中央図書館)</p> <p>照会記録の基本事項についてのフォーマットは従前中央図書館から提供したが、各館の事情により記録フォーマットは適宜変更して行われています。</p> <p>(永福図書館)</p> <p>既存の書式を引き継ぎ使用しています。情報共有を密にするため、使い勝手の良い物への見直し・改訂の検討準備をしています。</p> <p>(柿木図書館)</p> <p>当館で作成した書式に記録しています。</p> <p>(高円寺図書館)</p> <p>カウンター日誌に記録しています。</p> <p>(宮前図書館)</p> <p>現時点では特に記録等を取っておりません。</p> <p>(成田図書館)</p> <p>当館で作成し、記録しています。</p> <p>(阿佐谷図書館)</p> <p>クイックレファレンスとレファレンスに分けて記録用紙を用意し、記録しています。</p> <p>(下井草)</p> <p>時間を要する事案については、内容を記録していますが、軽易なものについては、その都度対応しています。</p> <p>(高井戸図書館)</p> <p>書式を作成し、実施しています。記入忘れもありますが、極力書くようにしています。</p> <p>(西荻図書館)</p> <p>様式は、中央図書館と一緒にだと思っていますが、中央図書館は2種類あると聞いています。</p> <p>(南荻窪図書館)</p> <p>調査レファレンス記録用紙を作成しています。調査、回答が終了したものは、フラットファイルにと</p>

	<p>じて保管しています。 (今川図書館) 館独自の書式を作成して記録しています (方南図書館) 独自の書式で記録しています。 (下井草図書館) 時間を要する事案については、内容を記録していますが、軽易なものについては、その都度対応しています。</p>
質問 7	<p>書架整理について 出勤時刻と開館時刻とが近接していて、朝、書架の整理をすることが出来ないということはありませんか。日常的な業務としての書架の整理はいつ行っているのですか。</p>
	<p>(中央図書館) 出勤時、退勤時、その他適宜必要な時に行われています。 (永福図書館) 日常業務として、開館準備終了後カウンター当番以外のスタッフは9時30分まで返却本の書架戻し・書架整理を行うことにしております。また、それ以外の時間帯は随時カウンター当番以外のスタッフが返却本の書架戻し・書架整理に入っています。 (柿木図書館) かなりの職員が自主的に早めに出勤し、開館時間までに書架整理を行っています。 また、カウンター当番以外の職員が随時書架整理を行っています。 (高円寺図書館) 開館前に限らず、返却本の書架戻しを兼ねて書架整理を行なっています。 (宮前図書館) 朝・午前中は予約本・交換便対応がメインとなっており、開館直後に書架整理を行うことは原則ありません。これらの作業が一段落した午後に資料返却・書架整理を行っています。 (成田図書館) 開館前の30分と1日5回の書架整理をシフトに組み込んで行っています。また、責任者が適宜、書架の状態を確認し、見やすい状態を保つようスタッフへ指導しています。 (阿佐谷図書館) 開館前には書架整理の時間が持たないため、開館中に配架をしながら書架整理を行っています。厳密な書架整理は月1回の館内整理日に行っています。 (下井草図書館) 都立中央図書館では、出勤時刻と開館時刻との差は1時間を確保していると聞いております。当館では、出勤時刻と開館時刻との差は30分ですが、ルーチンワークの中で、書架整理の担当を決め、開館時間中に書架整理を行っています。 (高井戸図書館) 確かに出勤時刻から開館までの時間は短く、書架整理のすべてを完了することは困難ですが、各自の当日のシフトに「書架整理」の項目を設定しており、そこで完了しています。 (西荻図書館) 出勤後、開館までの時間は、予約回送処理で手いっぱい、書架整理は出来ません。書架整理は、日中、配架と同時に行っています。 (南荻窪図書館) 開館までの間、乱れているところを重点的に書架整理をしています。また、日常的な業務としての書架整理は返却資料の配架の時間に含まれています。 (今川図書館) 開館前は書架整理があまりできませんので、開館してから、交代で書架整理にあたっています。 (方南図書館) 支障なく行っています。毎朝8時30分から5分程度の朝ミーティングを行っていますが、返却ポスト等の処理は、ミーティングまでに早めに出勤した職員によって処理が済まされています。(雨天の場合は時間がかかる)</p>

	<p>書架の整理は開館中適宜行っており、閉館時にその日のうちの配架は基本的に済まされており、返却本が翌朝まで残されていることはほとんどありません。ただし、年始や曝書明け等、返却が集中する場合は配架に午前いっぱいかかることもあります。配架整理は基本業務ですので、整理ができないということはありません。目についた時にいつでも行っています。</p>
質問 8	<p>行事について(川田委員) 行事が多過ぎて基本的な業務に支障が生じていると感じていることはないですか。</p>
回答	<p>(中央図書館) イベント等の行事が集中する期間は、係内や係間での応援等を行っており、基本的な業務に支障が出ることはありません。</p> <p>(永福図書館) そのように感じることはあります。</p> <p>(柿木図書館) 常勤の職員が6名と少ないため、基本的な業務の遂行には苦労しています。</p> <p>(高円寺図書館) 行事予定に応じて、休務日を変更や、カウンター当番を変更するなど、対応しております。</p> <p>(宮前図書館) 特に現時点で大きな支障はでていませんが、時期によっては事業が集中すると資料返却・書架整理等が後回しになることがあります。ただし、事業については効果の面から廃止・新規を含め効果測定の上、定期的に事業の妥当性を判断する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>(成田図書館) 全館統一行事は最小限にし、地域住民の特性を配慮した行事を強化する運営も試してみたいと思います。成田図書館でボランティアの協力を得て開催している行事は、おはなし会のみです。</p> <p>(阿佐谷図書館) 業務最優先の視点で運営し、行事は先を見据えた準備をするようにしている(準備期間は長く取っています)ので、支障が生じていると感じたことはありません。</p> <p>(下井草図書館) 行事が多すぎる傾向ではありますが、日程を調整しており、今のところ基本的業務に支障がないように配慮しています。</p> <p>(高井戸図書館) 日常業務の質を維持するために、まず、行事の多い児童担当は行事を分担し、主になる人と助手各1名で実施し、他のスタッフは行事に関わらないようにします。一般向け事業のほとんどは、現場に出ない館長が担うなどの工夫をしています。</p> <p>(西荻図書館) 基本的な業務がおろそかにならないように、行事の準備期間中は、ローテーションの変更や時間外勤務など、職員一丸となって対応しています。</p> <p>(南荻窪図書館) 支障が生じないよう勤務表やタイムテーブルを検討しています。</p> <p>(今川図書館) 特にありません。</p> <p>(方南図書館) 行事への取り組み方にもよると思います。職員参加の行事の時は、配架へ人手が回らずに書棚が乱れてしまうことがありました。行事への関わり方の問題であると思うので、現在見直し中です。</p>

<p>質問 1</p>	<p>分担収集・重点収集について 各館で、分担になっている分野、重点的にそろえている分野を、もっと誰にでもわかるように、事ある毎に<宣伝>して欲しい。 例えば、自然科学の調べ物をする際、どこの図書館に行けば、より、充実しているのか。また、これは、児童書についても同じ分野なのか。</p>
<p>回答</p>	<p>分担収集は、図書館全体としての蔵書構成とタイトル数の確保を目的としているため、宣伝の必要性は高いものでないものと考えています。また、重点課題につきましては、各館で行う事業などについて適宜宣伝しています。なお、HPでの掲載については、検討したいと考えています。 児童書については、出版数が多くないとの判断から分担収集は行っていません。</p>
<p>質問 2-1</p>	<p>行事について 25年度上半期 取組状況の中の、方南図書館(2ページ目)にあった「親子参加型の行事」2回は、大好評だったとのこと。具体的にどんな行事だったのか。写真などがあるなら見せて欲しい。</p>
<p>回答</p>	<p>(方南図書館) 1回目は5月15日・22日・29日の「親子で楽しむ絵本とわらべうた」の3回連続講座。対象は1歳半から3歳児とその保護者で3回とも出席できる方。定員15組。 講師:久保厚子氏 耳から言葉で聴いて物語を楽しんでもらう活動をしている。長く、埼玉県内の公共図書館にて、絵本のよみきかせを取入れてた「わらべうたストレッチ講座」を開催。全日本太極拳協会上級総合コーチ。 内容:3回とも構成は同様。初回に出席カードを配布。また、呼びかけやすいように子どもに名札を前後につけてもらう。(シール)乳幼児向け絵本の3冊の読み聞かせ、手遊び・わらべうた5曲ほどの2回ないし3回の繰り返し。身体を動かしての手遊び・わらべうたをした後によみきかせをする等、プログラムは工夫されている。また、手遊び・わらべうたは3回を通して同じものも交え、回が重なるにつれ親子の声も動きも大きくなっているのがわかった。最後に出席カードの裏にわが子へのお手紙を書いてもらい、発表してもらう。 2回目は9月25日の「親子でワイワイリトミック」対象年齢別の2回開催。 6か月から1歳児とその保護者 定員15組、2歳から3歳児とその保護者 定員12組。(キャンセル待ち各4組受付) 講師:高橋裕子氏 リトミック研究センター上級認定講師。ヤマハ音楽教室講師。 内容:1歳児以下のクラス リズムにのせて子ども達とあいさつ。全員に胸に大きく名前のシールを付けてもらい、名前を呼びかけながらお返事の歌。身体を動かしたり抱っこしながらリトミック。手遊びうたや乳幼児向けの絵本よみきかせ各2点。パネルシアター。あかちゃんを膝に乗せてギュッと抱きしめたりゆらゆら揺らしたりくすぐったりし、歌に合わせて身体を動かす。最後は参加のあかちゃんみんなの手を握ってお別れ。 2・3歳児のクラス めいぐるみを使って挨拶。ビニールボールを軽くやりとり。歌いながら親子輪になって周り、合図があったらストップ、さらに合図があったら反対周り等のリトミック。スカーフを使用したリトミック。絵本よみきかせ。手遊び歌2回。パネルシアター。紙皿を使用した簡単な工作でカエル・カスタネットを親子で作成。そのカスタネットを使用して歌。</p>

<p>質問 2-2</p>	<p>例えば、中央図書館の「ぬいぐるみおとまり会」のような事業は、運営状況報告ではどの分野に入るのか。(児童向け事業？ その他？) 同じように、各図書館で行なわれている事業区分けの中身を知りたい。</p>
<p>回答</p>	<p>中央図書館 「ぬいぐるみおとまり会」は、子ども会でカウントしていますので、児童向け事業になります。 また、各図書館で実施する事業の区分は、以下のとおりですが、事業によってはどの区分に入れてよいか判断に迷うものもあります。そこで、統一した基準を作成し誰が担当しても数値のとり方に誤りがないようにするための準備を進めています。</p> <p>現行の事業区分 おはなし会 映画会 講演会 講座 人形劇 展示会 館外行事(ブックトーク、その他) 図書館見学 こども会 その他</p>
<p>質問 2-3</p>	<p>運営状況報告で「その他」に分類されている事業は、それぞれどのようなものだったのかを知りたい。</p>
<p>回答</p>	<p>以下のとおりです。 (柿木図書館) 「近隣小学校に出向いてのブックトーク」、「小学1年生を招いての図書館見学会」 (宮前図書館) 「あかちゃんタイム」、「朗読コンサート」、「夏休み読書ビンゴ」、「本の世界に入ってみよう」 (南荻窪図書館) 「わたしもぼくもとしゃかんいん」、「夏のこわーいおはなし会」、「クリスマスおたのしみ会」、「スタンプラリー」 (阿佐谷図書館) リサイクル本市、夏休み読書ラリー、講座などに入らない事業(史跡散歩、本の福袋貸出) (高井戸図書館) 職場体験(中学校4校・小学校1校)、ボランティア体験(高校3校)、インターンシップ(高校1校)、職場訪問(中学校1校) (下井草図書館) 「リサイクルフェスタ」、「冬休みスタンプラリー」 (方南図書館) 「子ども読書の日記念事業 紙芝居劇場」、「ピバーチェ」、「スペシャルおはなし会」、「プラネタリウム」、「スタンプラリー」、「こわーいおはなし会」、「冬のおはなし会」、「むさしの保育園のおたのしみ会」、「本の世界に入ってみよう」</p>
<p>質問 2-4</p>	<p>回数は24年度、23年度ともに6回だが、参加人数は23年度の方が750人も多い。1回の平均にすると、7倍。全体に多かったのか、何回か非常に参加者数が多い事業があったのか。それは、どんな事業だったのか</p>
<p>回答</p>	<p>中央図書館 23年度はその他でカウントした「夏休みのスタンプラリーの参加者数」を、24年度は児童向け事業に参入したためです。</p>
<p>質問 2-5</p>	<p>回数は13回から8回に減ったが、参加者数は127名増</p>
<p>回答</p>	<p>(柿木図書館) 内容としましては、近隣小学校2校の1,2年生を対象に行ったブックトークと1年生を対象に実施した図書館見学会について、23年度は学年ごとの回数、24年度は学校ごとの回数を集計してしまっただけ回数に違いが出てしまいました。参加者数の増は学校の児童数の増があったためです。</p>

質問 2-6	回数が5回から7回と2回増えているが、154人増。23年度は5回で参加者数は11名のみ。こんなに少なかったのはなぜ？												
回答	<p>(高円寺図書館)</p> <p>23年度と24年度で統計の取り方が異なっていました。</p> <p>23年度 中学生の体験学習5校、11人を計上</p> <p>24年度 中学生の体験学習1校、2人</p> <p>スペシャルお話し会3回、71人</p> <p>図書館探検1回、23人</p> <p>科学あそびのかい1回、29人</p> <p>高円寺フェス映画会1回、40人</p>												
質問 2-7	前年度22回から23回と、1回増えているが、前年度の方が579人多い。												
回答	<p>西荻図書館</p> <p>23年度のその他の参加者数は、児童対象のぬりえの参加者数が大半を占めています。そのぬりえは、壁面に飾るためなので、24年度の統計では、そのぬりえ事業を事業実施状況報告の展示(壁面利用)に合わせて、展示の統計に算入したためです。</p> <p>回数が増えたのは、赤ちゃんを楽しむ絵本の時間(赤ちゃんタイム)を隔月から、毎月実施としたり、近隣保育園の出張お話し会や職場体験を増やしたためです。</p>												
質問 2-8	2年連続8回だが、どちらも1回平均にすると251人、307人と他館に比べて多い。どんな事業なのか。												
回答	<p>(阿佐谷図書館)</p> <p>リサイクル本市を人数統計にカウントしているため多いと思われます。事業の内容は以下の通りです。</p> <table border="1" data-bbox="319 1052 1308 1209"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>24年度 人数(回数)</th> <th>23年度 人数(回数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リサイクル本市</td> <td>1,401人(5回)</td> <td>1,721人(5回)</td> </tr> <tr> <td>夏休み読書ラリー</td> <td>560人(1回)</td> <td>678人(1回)</td> </tr> <tr> <td>講座等に入らない事業</td> <td>47人(2回)</td> <td>56人(2回)</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	24年度 人数(回数)	23年度 人数(回数)	リサイクル本市	1,401人(5回)	1,721人(5回)	夏休み読書ラリー	560人(1回)	678人(1回)	講座等に入らない事業	47人(2回)	56人(2回)
事業名	24年度 人数(回数)	23年度 人数(回数)											
リサイクル本市	1,401人(5回)	1,721人(5回)											
夏休み読書ラリー	560人(1回)	678人(1回)											
講座等に入らない事業	47人(2回)	56人(2回)											
質問 2-9	8回から7回に減っただけで1074人の減。23年度にかなり参加者数が多い事業があったと思われる。何だったのか。												
回答	<p>(南荻窪図書館)</p> <p>24年度の人数減の理由は、23年度事業実績に図書館の主催でない事業の参加人数が含まれていましたが、平成24年度ではこの図書館主催事業ではないものの数値を除いて事業実績を作成したことによるものです。</p>												
質問 2-10	23年度が0回だったが、24年度は12回。でも、参加者数は25名。何か改善点はあるのか。それとも、その人数でもいい事業なのか。(決して数が多い物が、良い事業とは思わないが、折角やるのだったら、何とかできないのか。)												
回答	<p>高井戸図書館</p> <p>24年度の12回の内容は「職場体験」「インターンシップ」「ボランティア活動体験」などの受け入れ回数です。25名の参加ですが、職場体験では1人が5日 インターンシップでは10日～14日ほどの期間になり、延べ人数では124人になります。</p> <p>なお、23年度の「0」は職場体験などを「事業」に算入していなかったためであり、24年度と同程度の実績があります。</p>												

<p>質問 2-11</p>	<p>展示会について 展示会が、24年度にかなり増えている。特に(1)中央図書館が49 70、(2)永福25 55、(7)西荻 20 47、(12)方南 24 52などが目立つ。 どのような展示を増やしたのか。また、その効果や反響、改善点などはあるか。</p>
<p>回答</p>	<p>中央図書館 月1回のテーマを2回実施した月があることやYA展示を増やしたためです。 永福図書館 平成23年度は一般書・児童書の各月間特集展示回数のみカウントしたが、24年度は、加えて季節の歳時、その時々で話題となった出来事や分野の関連本をスポット的に展示した回数もカウントしたためです。 西荻図書館 23年度の集計ですが、統計表に展示名だけでなく、カウント数を入れるべきところ、漏れてしまっていました。記入すべきは：7月は3回、8月は3回、9月は2回、10月は4回、1月は2回、3月は3回となるべきで、合計37回となります。24年度は、以上に加えて、(7)のとおり、ぬりえ展示の回数をカウントしたためです。 方南図書館 毎月の特集にその時期に合わせたスポット展示を増やしたためです。 効果:季節やニュースに沿ったテーマで展示した本は、利用されやすい(貸出に繋がる)。 反響:しばしば、お客様が展示の前に立ち止まって手に取っていることや職員に声をかけていただけ。 改善点:展示に対するお客様の声を直接収集していない。(利用者満足度調査には、質問項目あり)</p>
<p>質問 2-12</p>	<p>児童向け(子ども会、人形劇)について これは、各館のスペースにも関連するので、参加人数が多い、少ないを比べる事はできないが、中央が、24回 28回に増やし、参加人数は816 1960で、1回の平均参加人数にして比べても倍になっている。どんな工夫をした？</p>
<p>回答</p>	<p>中央図書館 夏休みチャレンジ(スタンプラリー)の行事を23年度は、その他でカウントしていたが、平成24年度から児童向け事業に組み替えたためです。</p>
<p>質問 2-13</p>	<p>逆に、柿の木は、23年度は4回行い、1回平均150人近い参加があったが、24年度は0回。ただ、おはなし会がその分6回増えている。これは、本を中心にじっくり取り組む方針なのでは？ 数にとらわれず、良い物は良い、という取り組み方なのだろうと思い、好感を持った。これは、先日の報告の中にも現れていた。「児童館の幼児対象の行事に参加して、ノウハウの習得に努めた」というところなど。他の施設とのコラボ企画など、積極的に進めて欲しい。横のつながりは、とても大切だと思う。</p>
<p>回答</p>	<p>柿木図書館 24年度のおはなし会は、年度の途中から月1回あかちゃんおはなし会を始めたため6回増えています。 23年度は、「自分だけのしおりをつくらう」というイベントを実施し、こども会の欄に集計していましたが、正確でないため24年度から除外しました。</p>

<p>質問 2-14</p>	<p>提示されている資料が、数字中心であったため、どうしても数字に関する質問が増えてしまっ たが、最初にも述べたとおり、数字で事業の内容を把握することはとても難しい。数字だと客観的 評価のように見えるが、実はその中身によって意味する物が全く違ってしまふ。</p> <p>数字の報告も必要だが、1年間の中で、おもな行事や本の紹介など、ビジュアル的な報告もある と良いと思った。</p> <p>(例)</p> <p>どの図書館でも、毎月、児童書のコーナーで特集を組んで展示をしていますね。それを写真に とっておき、1年分をまとめて冊子にするのはどうでしょうか。また、その時に展示した本のブックリ ストもあると便利です。</p> <p>児童コーナーの実物展示も毎回、楽しみにしています！ それも写真などで報告があると楽しい のでは。少し前ですが、阿佐ヶ谷図書館では、フウセンカズラの種をカワイイ手作りの封筒に入れ て配っていました。本と実物、見比べて楽しみました。</p> <p>毎回、図書館の方達が工夫をこらしてくださっています。それを『見せるかたちで記録しておく』こと も、宝物なのではないでしょうか。</p>
<p>回答</p>	<p>ビジュアル的な報告も必要と考えていますので、主な行事の写真添付など、今後の報告書作 成時の参考とさせていただきます。</p>

<p>質問 1</p>	<p>ボランティアについて 11月の協議会資料として「平成25年度上半期取組状況」を受取り、取組状況の最後の頁に前回協議会で質問した「おはなし会への取組状況」「ボランティアが行うおはなし会への職員の関わり方」についての項目があり、草々に対応していただいたことに正直驚きました(良い意味で)。ありがとうございました。 取組状況によると、各館とも概ねおはなし会の内容を事前に準備し、終了後には報告書等に記録、報告内容を検証し、次回のおはなし会に生かすよう工夫しながら実施している。とのことなので、私の危惧は不要であり、更なる児童サービスが期待できると感じました。 ボランティアとの関わり方については、各館によって差があるようです、おはなし会開催時には図書館職員が必ず同席する責任があるのではないかと思います。</p>
<p>回答</p>	<p>中央図書館では、ボランティア主催のおはなし会に図書館職員が同席することはありませんが、おはなしの小部屋は児童カウンターのすぐ近くにあり、おはなし会の時間には必ずカウンターに職員がついています。ボランティアメンバーのみで実施するおはなし会にも協働事業として図書館職員が、適時適切に内容や状況の確認ができるようにすべきと考えています。</p>
<p>質問 2</p>	<p>学校図書館への支援について 区の施設再編計画策定の中で、中央図書館の大規模改修の際、学校向け団体貸出資料が保管されているBM棟も改修の対象になっているのですか？改修の場合、資料はどこに移動するのですか？ 図書館の重点課題である学校図書館支援のために児童対象資料が集まっているBM棟が果たす役割は非常に重要であると考えます。できれば、中央図書館内に過去にあった学校支援係を復活すべきではないかと考えます。</p>
<p>回答</p>	<p>電気・給排水を含めた大規模な改修工事となりますので、BM棟もこの工事対象となります。資料をどこに移動するかは、今後の課題です。 現在、中央図書館所蔵の学校支援用資料のうち、調べ学習資料はすべて本館の児童資料室に配架しています。BM棟ではクラス貸出用資料(クラス貸出は各館で分担して担当しています。中央図書館事業係が担当している小学校は12校です)と区内公共施設(ゆうゆう館等)への貸出用一般資料です。 学校支援については、区立小中学校図書館司書専用の団体貸出カード(予約取り寄せができ、すべての地域館が利用できる)を11月に発行して調べ学習資料の区立学校での準備に便宜を図っていますので、学校支援系の復活は、考えておりません。</p>
<p>質問 3</p>	<p>除籍について 今年度は資料整理を進めるために除籍を積極的に進めている。とあり、除籍の対象は副本が主で、タイトルは減らさない。とのことでしたが、同名タイトルで作家、翻訳者が異なった場合、杉並の図書館には案外ない場合があるので、この機会に調査点検して足りない資料は揃えてほしい。(特に外国古典文学)</p>
<p>回答</p>	<p>翻訳されて出版された書籍は、同タイトルであっても翻訳者が違う場合は、別の書籍として取り扱っています。また、翻訳された書籍については、評価や実績のある翻訳者であるものを利用頻度や所蔵スペースなどを総合的に勘案して所蔵しています。今後とも同様に対応いたします。</p>

<p>質問 4</p>	<p>児童館等との連携について 今回、半数の図書館で児童館、ゆうゆう館、科学館等、社会教育機関との連携が見られました。読書活動を推進する上でも、地域の人たちが気軽に利用している公共施設との連携は益々必要不可欠であると考えます。 中でも、児童館には子どものための図書室もあり、年間数万円の予算もあるらしいのですが、整備されているとは言い難い状況です。連携する際、地域館が児童館の図書室を支援する体制があると良いと思います。児童館は、あかちゃんもたくさん利用しているので、児童館職員と連携することで「あかちゃんタイム」がグレードアップすると思います。</p>
<p>回答</p>	<p>区立の施設では、合同の広報などで連携しています。児童館には、図書の団体貸出、リサイクル資料の譲渡などで各図書館から支援をしています。 なお、地域館が児童館の図書室を支援する体制については、各地域館の体制等を踏まえ、検討課題とさせていただきます。</p>
<p>質問 5</p>	<p>区民参加について この1～2年の間に区民参加の「図書館サポーター」「良くする会」が結成され、活動している地域館があるので注目しています。 図書館利用団体、または個人との定期的な意見交換会を必ず開催してほしい。</p>
<p>回答</p>	<p>毎年開催しています利用団体等との懇談会を3月に開催する予定です。</p>